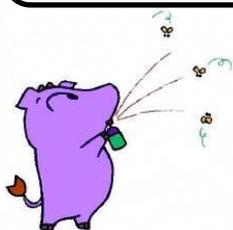


ハエの防除対策をしましょう



気温が上昇し、ハエの発生が目立つ時期になりました。

対策を怠ると大量発生し、家畜へのストレス・病原体の媒介・近隣からの苦情など深刻な弊害を生じます。薬剤を適切に使用し、効率的な防除に努めましょう。

★ハエのライフサイクルと対策★

卵



1. 発生源対策

- ・畜房のすみ、残餌、汚水だまり等を清掃し、ウジが育つ場所をなくします。
- ・適切な堆肥処理により、発酵熱と乾燥でウジを退治します。温度が40°C以上、水分50%以下の条件でふ化率が激減します。卵がふ化しない1週間以内の間隔で切り替えしを行うことが重要です。

うじ



さなぎ

成虫



2. 幼虫対策

- ・昆虫発育抑制剤(IGR剤)の使用が有効です。薬剤の容量・用法を守り、適切な間隔で十分な量を均一に散布します。

3. 成虫対策

- ・ハエが増えてきたら、IGR剤の散布回数を増やし、毒餌法をあわせて実施します。毒餌法は、市販品のほか、ハエを引きつける餌(砂糖、粉ミルク、お酒、糖蜜など)に有機リン系、カーバメイト系の薬剤を混合して、成虫を退治します。
- ・家畜やペットが誤って口にしないよう注意して行ってください。

飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎内)

〒506-8688 高山市上岡本町7-468

TEL:0577-33-1111 FAX:0577-32-9019 E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp



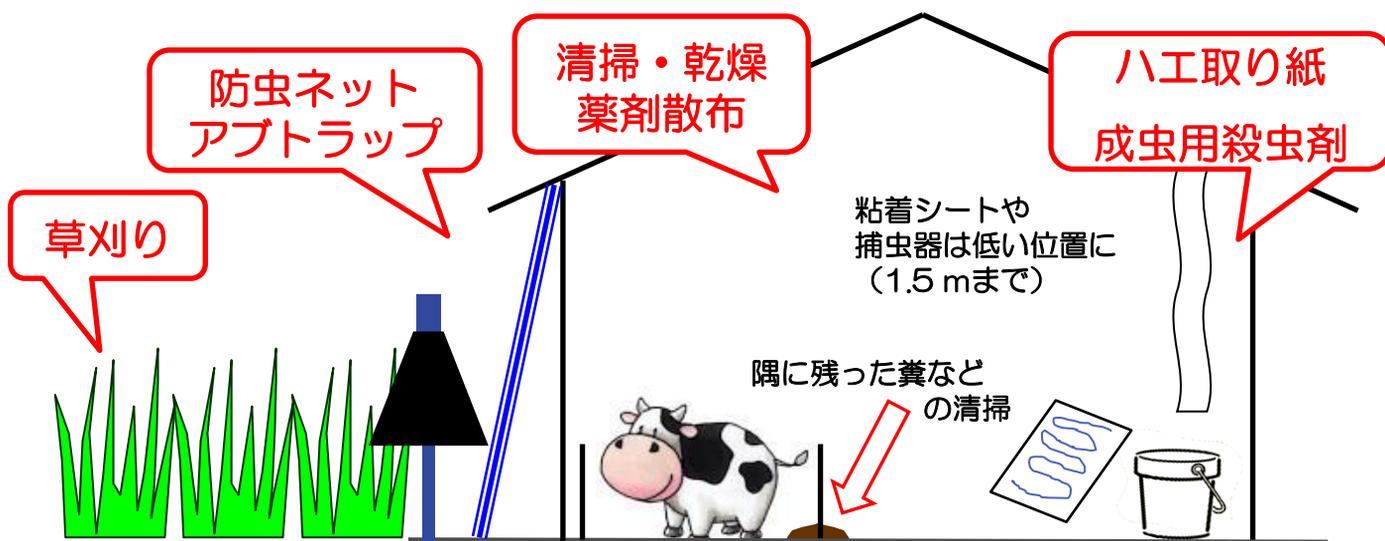
牛白血病伝播防止のため サシバエ・アブ対策をしましょう

サシバエやアブは吸血を行い、牛白血病を媒介します。
また、吸血ストレスにより、採食量や泌乳量が低下する可能性があります。

	サシバエ	アブ
発生時期	春先や秋口の涼しい時期	6月～9月(真夏の昼間)
吸血	雄雌ともに、刺して吸血	雌のみ、皮膚を切り裂いて吸血
発生源	糞便、堆肥(湿ったところ)	湿地、草地、森林等

★対策のポイント★

サシバエ・アブともに、発生源対策、幼虫対策の基本は、ハエと同じです。
発生源となる場所の清掃、昆虫発育抑制剤(IGR剤)などを使いましょう。
成虫対策は、休息場所となる草むらを減らす(草刈)、アブトラップ、ハエ取り紙や防虫ネット
などがあります。このほか、耳標型の虫よけもあります。



畜舎周辺や
堆肥舎の清掃



給水器周辺
の清掃



耳標型の虫よけは、吸血昆虫対策だけではなく、
牛白血病抗体(+)と(-)で、タグの色を変えると
区別しやすいので、牛白血病対策に役立ちます。

